

I 令和5年度全国学力・学習状況調査の結果概要

1 実施概要

- (1) 実施日 令和5年4月18日（火）
- (2) 対象学年 小学校第6学年・中学校第3学年
- (3) 実施教科等

ア 教科に関する調査

- ・小学校第6学年：国語、算数
- ・中学校第3学年：国語、数学、英語

注：「主として『知識・技能』に関する問題」と「主として『活用』に関する問題」とを一体的に問う問題が出題されている。

注：中学校で4年ぶり2度目となる英語の教科調査が実施された。「話すこと」調査については、1人1台端末等を用いたオンライン方式により実施。

イ 質問紙調査

- ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する児童生徒に対する調査
- ・学校における指導方法に関する取組等の学校に対する調査

2 平均正答率の状況（京都市含む）

	国語		算数・数学		英語 ※話すことを除く3技能 (読む・聞く・書くこと)	
	京都府	全国	京都府	全国	京都府	全国
小学校	70	67.2	65	62.5		
中学校	71	69.8	52	51.0	47	45.6

3 結果の概要

○ 教科に関する調査

小学校、中学校ともに、全ての教科で平均正答率が全国平均以上であり、下位層の割合が全国値よりも低い。

○ 質問紙調査

京都府においては、授業におけるICT機器の使用頻度が全国に比べて高い。

II 教科に関する調査結果の概要

1 小学校の概要

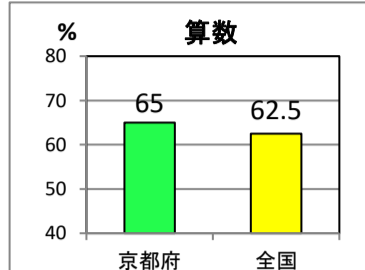
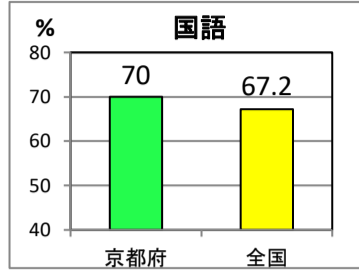


表1 小学校 平均正答率(京都府・全国とも公立学校)

教科等	国語		算数		理科	
	京都府	全国	京都府	全国	京都府	全国
令和5年度	70	67.2	65	62.5		
令和4年度	68	65.6	65	63.2	64	63.3
令和3年度	68	64.7	73	70.2		
31年度	66	63.8	68	66.6		
教科等	国語		算数		理科	
	A「知識」		B「活用」		理科	
	京都府	全国	京都府	全国	京都府	全国
30年度	73	70.7	56	54.7	65	63.5
29年度	76	74.8	59	57.5	80	78.6
28年度	74.2	72.9	59.4	57.8	79.9	77.6
27年度	72.1	70.0	67.5	65.4	77.6	75.2
26年度	73.3	72.9	56.9	55.5	79.9	78.1
25年度	65.8	62.7	52.1	49.4	79.2	77.2
24年度	82.7~	81.4~	57.2~	55.4~	75.7~	73.1~
	83.8	81.7	59.1	55.8	77.3	73.5
22年度	84.8~	83.2~	79.4~	77.7~	77.3~	74.0~
	86.2	83.5	81.3	78.0	79.2	74.4
21年度	71.6	69.9	53.4	50.5	82.2	78.7
20年度	68.4	65.4	53.7	50.5	75.3	72.2
19年度	82.8	81.7	64.0	62.0	85.3	82.1

○ 小学校の国語、算数について、全国平均以上です。

注: 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症に係る学校教育への影響等を考慮し、実施されていない。

2 中学校の概要

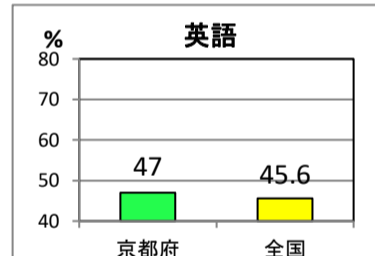
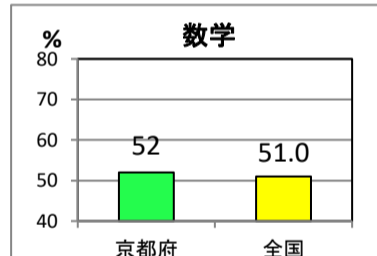
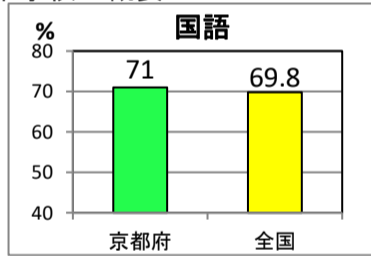


表2 中学校 平均正答率(京都府・全国とも公立学校)

教科等	国語		数学		理科		英語	
	京都府	全国	京都府	全国	京都府	全国	京都府	全国
令和5年度	71	69.8	52	51.0			47	45.6
令和4年度	69	69.0	52	51.4	49	49.3		
令和3年度	65	64.6	57	57.2				
31年度	73	72.8	61	59.8			56	56.0
教科等	国語		数学		理科		英語	
	A「知識」		B「活用」		理科		英語	
	京都府	全国	京都府	全国	京都府	全国	京都府	全国
30年度	77	76.1	62	61.2	67	66.1	48	46.9
29年度	78	77.4	73	72.2	66	64.6	49	48.1
28年度	75.8	75.6	67.2	66.5	63.3	62.2	45.0	44.1
27年度	76.7	75.8	66.5	65.8	65.3	64.4	42.5	41.6
26年度	79.4	79.4	51.3	51.0	67.7	67.4	60.1	59.8
25年度	76.3	76.4	68.2	67.4	64.2	63.7	42.9	41.5
24年度	74.2~	75.0~	61.5~	63.2~	61.6~	62.0~	47.3~	49.2~
	75.4	75.2	62.9	63.4	63.3	62.3	49.6	49.5
22年度	74.2~	75.0~	63.4~	65.1~	62.8~	64.4~	40.9~	43.1~
	75.3	75.2	64.8	65.5	64.6	64.8	42.9	43.5
21年度	75.9	77.0	73.0	74.5	62.3	62.7	55.5	56.9
20年度	73.5	73.6	61.0	60.8	64.1	63.1	49.5	49.2
19年度	81.4	81.6	72.0	72.0	72.8	71.9	61.2	60.6

○ 中学校の国語、数学、英語について、全国平均以上です。

注: 都道府県別の平均正答率については、整数値のみ公表することとされている。

注: 平成31年度(令和元年度)から「知識」と「活用」を一体的に問う問題形式に変更されている。

3 小学校 正答数の分布状況

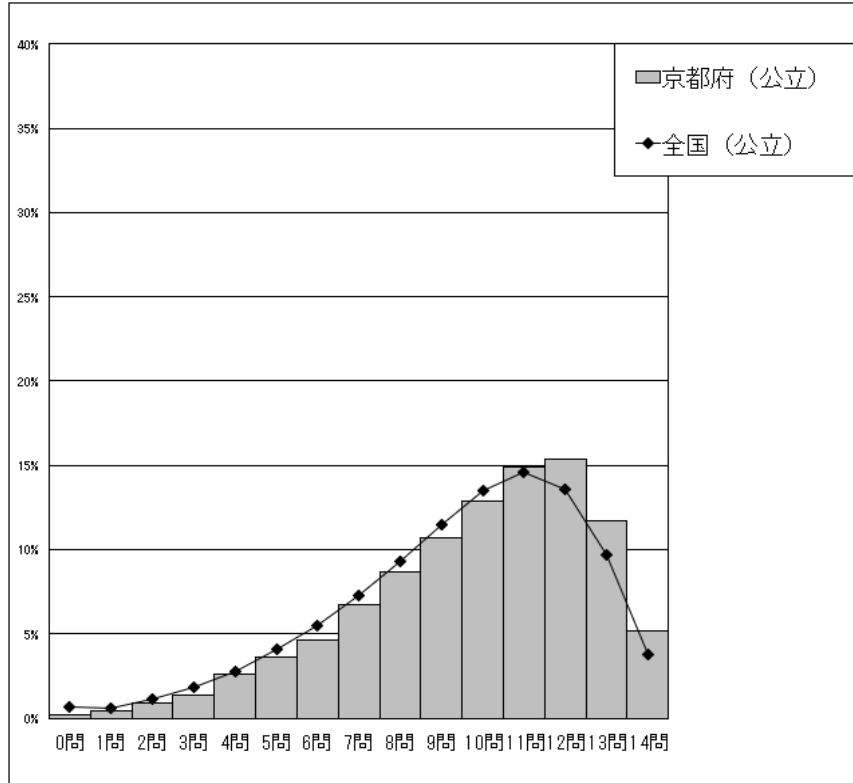
ア 国語

注: 都道府県別の平均正答率については、整数値のみ公表することとされている。

・以下の集計値/グラフは、4月18日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
京都府(公立)	18,517	9.8 / 14	70	10.0	2.8
全国(公立)	964,177	9.4 / 14	67.2	10.0	2.9

正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)

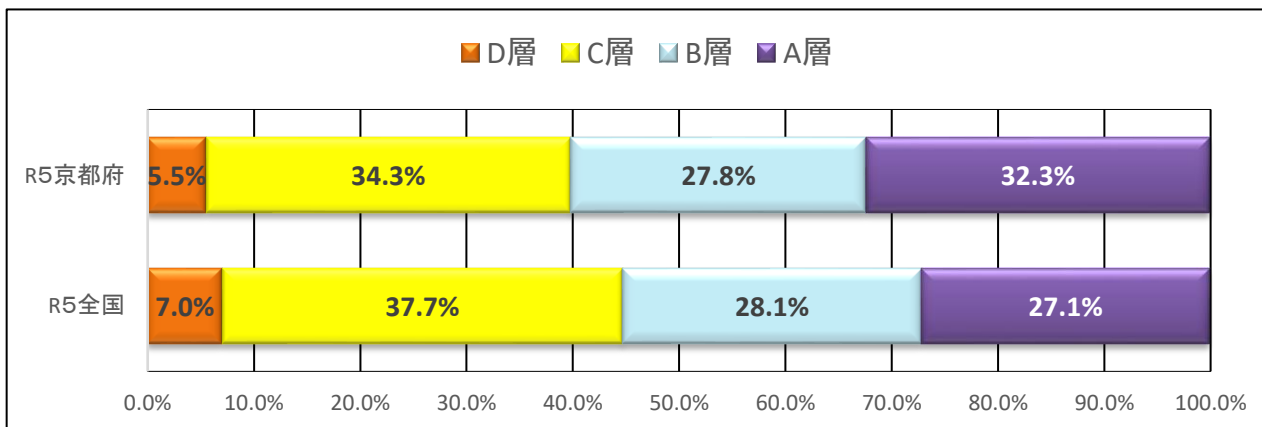


正答数	正答数集計値		
	児童数	割合(%)	
	京都府(公立)	京都府(公立)	全国(公立)
14問	964	5.2	3.8
13問	2,166	11.7	9.7
△ 12問	2,859	15.4	13.6
◇ 11問	2,753	14.9	14.6
◇ 10問	2,386	12.9	13.5
▽ 9問	1,977	10.7	11.5
▽ 8問	1,620	8.7	9.3
7問	1,240	6.7	7.3
6問	856	4.6	5.5
5問	674	3.6	4.1
4問	484	2.6	2.8
3問	266	1.4	1.8
2問	161	0.9	1.1
1問	65	0.4	0.6
0問	46	0.2	0.7

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	京都府(公立)	全国(公立)
△ 第3四分位	12.0問	12.0問
◇ 第2四分位	10.0問	10.0問
▽ 第1四分位	8.0問	8.0問

◇【小学校国語】 A～D層の分布状況



○上の正答数分布状況グラフは、児童をその正答数によりA層からD層までの4群に分け、それぞれの人数の比率を示したものです。

○各教科・各年度の平均正答数以上の児童をA層(上位)、B層(中上位)、平均正答数未満の児童をC層(中下位)、D層(下位)にそれぞれ2分割して表示しています。

○今年度の小学校国語の出題数は14問あり、全国の平均正答数が9.4問です。したがって、0～4問がD層、5～9問がC層、10～11問がB層、12～14問がA層となります。

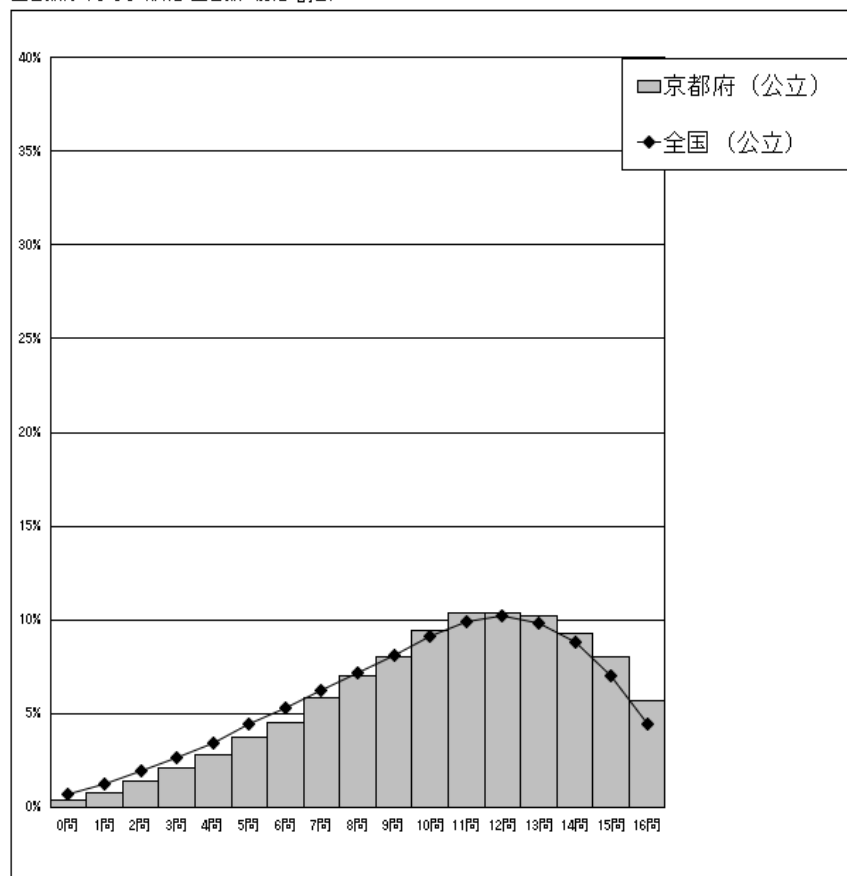
イ 算数

注: 都道府県別の平均正答率については、整数値のみ公表することとされている。

・以下の集計値/グラフは、4月18日に実施した調査の結果を、児童を対象として集計した値である。

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
京都府(公立)	18,525	10.4 / 16	65	11.0	3.7
全国(公立)	964,350	10.0 / 16	62.5	11.0	3.8

正答数分布グラフ(横軸: 正答数 縦軸: 割合)

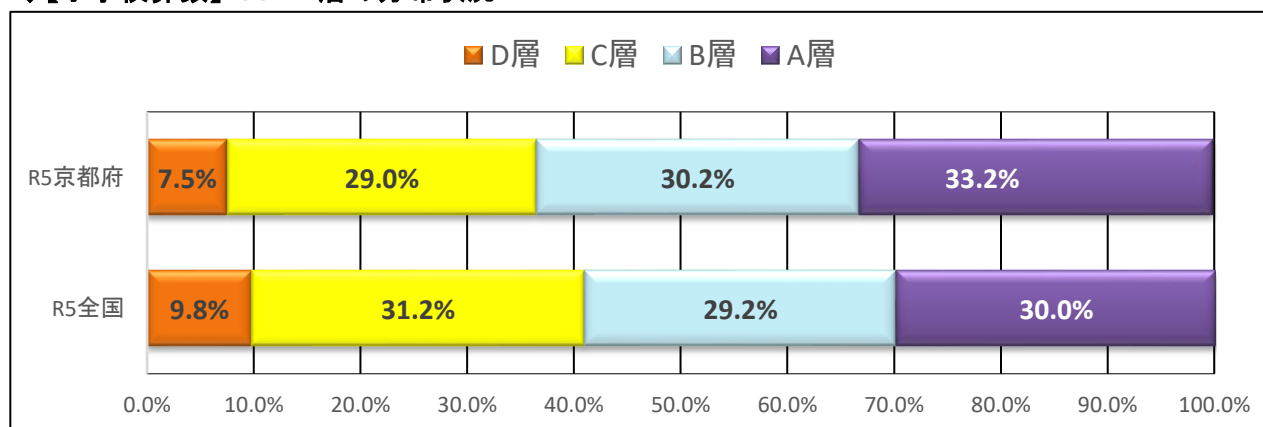


正答数	正答数集計値	
	児童数	割合(%)
	京都府(公立)	全国(公立)
16問	1,053	5.7 4.4
15問	1,480	8.0 7.0
14問	1,728	9.3 8.8
13問	1,894	10.2 9.8
12問	1,923	10.4 10.2
11問	1,930	10.4 9.9
10問	1,749	9.4 9.1
9問	1,477	8.0 8.1
8問	1,305	7.0 7.2
7問	1,078	5.8 6.2
6問	828	4.5 5.3
5問	682	3.7 4.4
4問	525	2.8 3.4
3問	383	2.1 2.6
2問	257	1.4 1.9
1問	153	0.8 1.2
0問	80	0.4 0.7

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	京都府(公立)	全国(公立)
△ 第3四分位	13.0問	13.0問
◇ 第2四分位	11.0問	11.0問
▽ 第1四分位	8.0問	7.0問

◇【小学校算数】A～D層の分布状況



○上の正答数分布状況グラフは、児童をその正答数によりA層からD層までの4群に分け、それぞれの人数の比率を示したものです。

○各教科・各年度の平均正答数以上の児童をA層(上位)、B層(中上位)、平均正答数未満の児童をC層(中下位)、D層(下位)にそれぞれ2分割して表示しています。

○今年度の小学校算数の出題数は16問あり、全国の平均正答数が10.0問です。したがって、0~4問がD層、5~9問がC層、10~12問がB層、13~16問がA層となります。

4 中学校 正答数の分布状況

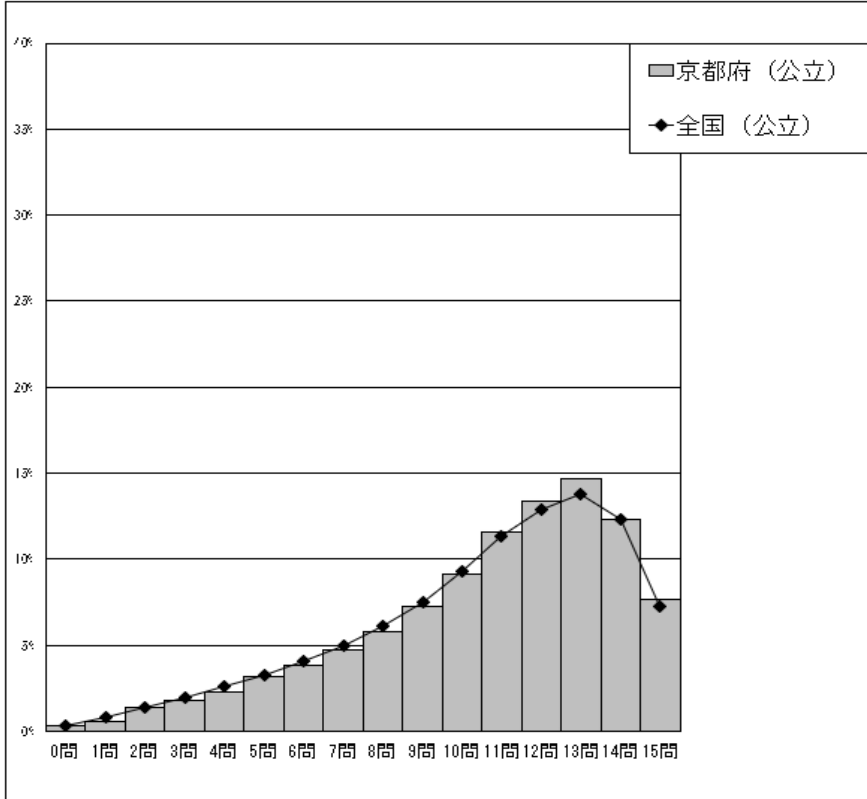
ア 国語

注：都道府県別の平均正答率については、整数値のみ公表することとされている。

・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
京都府（公立）	17,089	10.6 / 15	71	11.0	3.3
全国（公立）	892,738	10.5 / 15	69.8	11.0	3.4

正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）

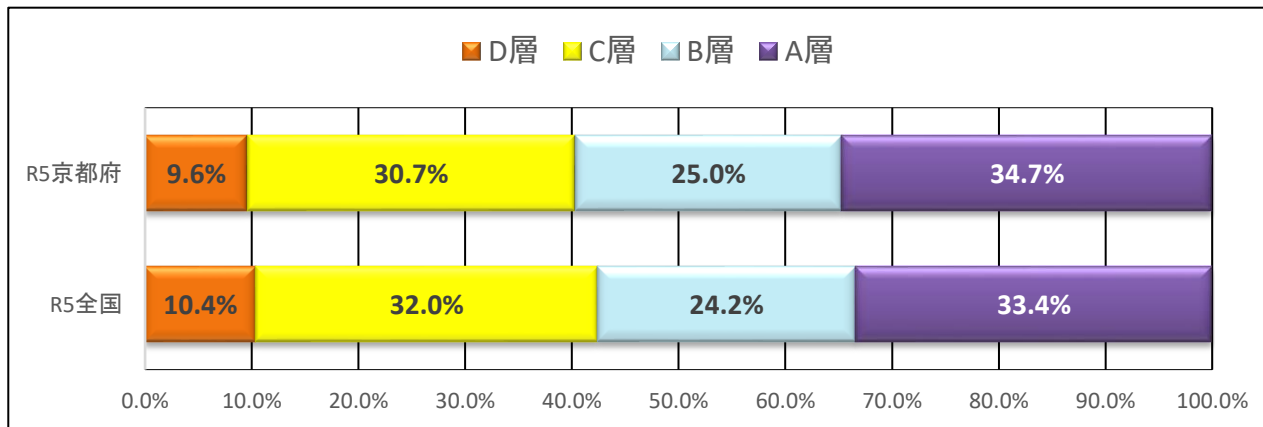


正答数	生徒数			割合(%)		
	京都府(公立)	京都府(公立)	全国(公立)	京都府(公立)	京都府(公立)	全国(公立)
15問	1,319	7.7	7.3			
14問	2,087	12.3	12.3			
△ 13問	2,504	14.7	13.8			
12問	2,287	13.4	12.9			
◇ 11問	1,984	11.6	11.3			
10問	1,547	9.1	9.3			
▽ 9問	1,254	7.3	7.5			
8問	993	5.8	6.1			
7問	804	4.7	5.0			
6問	643	3.8	4.1			
5問	540	3.2	3.3			
4問	393	2.3	2.6			
3問	314	1.8	2.0			
2問	239	1.4	1.4			
1問	100	0.6	0.8			
0問	51	0.3	0.3			

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	京都府(公立)	全国(公立)
△ 第3四分位	13.0問	13.0問
◇ 第2四分位	11.0問	11.0問
▽ 第1四分位	9.0問	8.0問

◇【中学校国語】A～D層の分布状況



○上の正答数分布状況グラフは、生徒をその正答数によりA層からD層までの4群に分け、それぞれの人数の比率を示したものです。

○各教科・各年度の平均正答数以上の生徒をA層（上位）、B層（中上位）、平均正答数未満の生徒をC層（中下位）、D層（下位）にそれぞれ2分割して表示しています。

○今年度の中学校国語の出題数は15問あり、全国平均正答数が10.5問です。したがって、0～5問がD層、6～10問がC層、11～12問がB層、13～15問がA層となります。

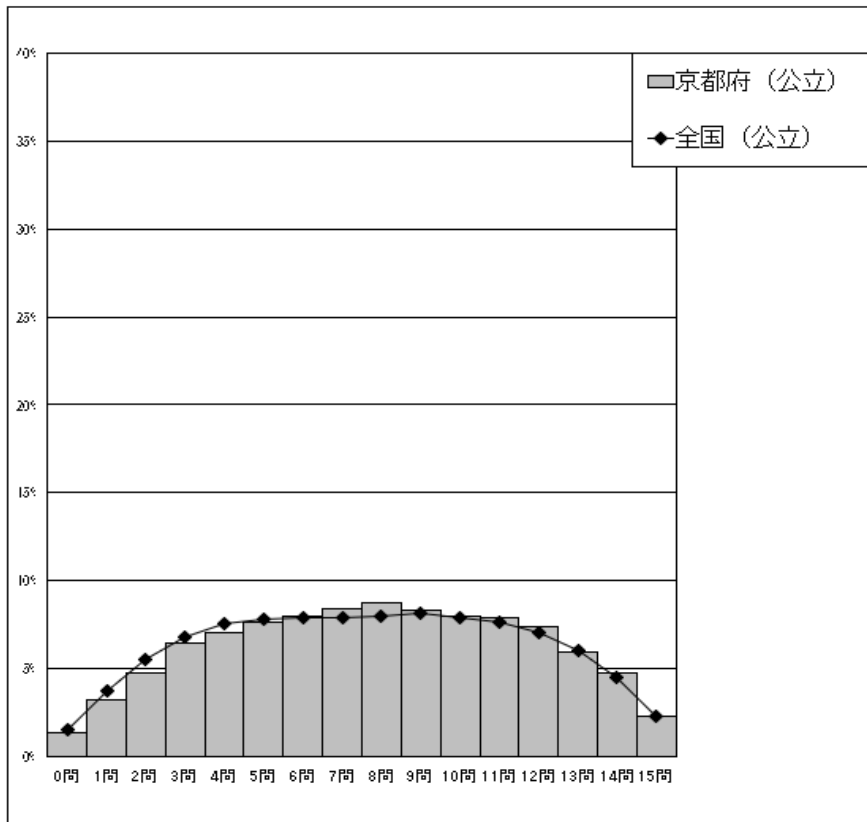
イ 数学

注: 都道府県別の平均正答率については、整数値のみ公表することとされている。

・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
京都府(公立)	17,084	7.8 / 15	52	8.0	3.8
全国(公立)	893,114	7.6 / 15	51.0	8.0	3.9

正答数分布グラフ(横軸: 正答数 縦軸: 割合)

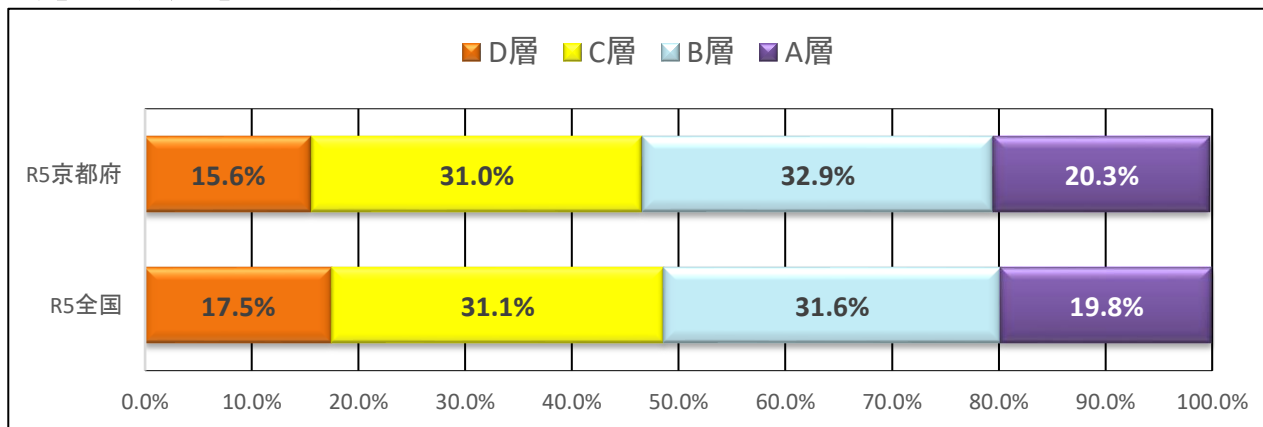


正答数	正答数集計値	
	生徒数	割合(%)
	京都府(公立)	全国(公立)
15問	391	2.3
14問	803	4.7
13問	1,009	5.9
12問	1,258	7.4
11問	1,358	7.9
10問	1,374	8.0
9問	1,425	8.3
8問	1,479	8.7
7問	1,441	8.4
6問	1,373	8.0
5問	1,305	7.8
4問	1,198	7.0
3問	1,089	6.4
2問	808	4.7
1問	553	3.2
0問	220	1.3

※今回の調査での四分位は以下の通りでした。

	京都府(公立)	全国(公立)
△ 第3四分位	11.0問	11.0問
◇ 第2四分位	8.0問	8.0問
▽ 第1四分位	5.0問	4.0問

◇【中学校数学】A～D層の分布状況



○上の正答数分布状況グラフは、生徒をその正答数によりA層からD層までの4群に分け、それぞれの人数の比率を示したものです。

○各教科・各年度の平均正答数以上の生徒をA層(上位)、B層(中上位)、平均正答数未満の生徒をC層(中下位)、D層(下位)にそれぞれ2分割して表示しています。

○今年度の中学校数学の出題数は15問あり、全国の平均正答数が7.6問です。したがって、0～3問がD層、4～7問がC層、8～11問がB層、12～15問がA層となります。

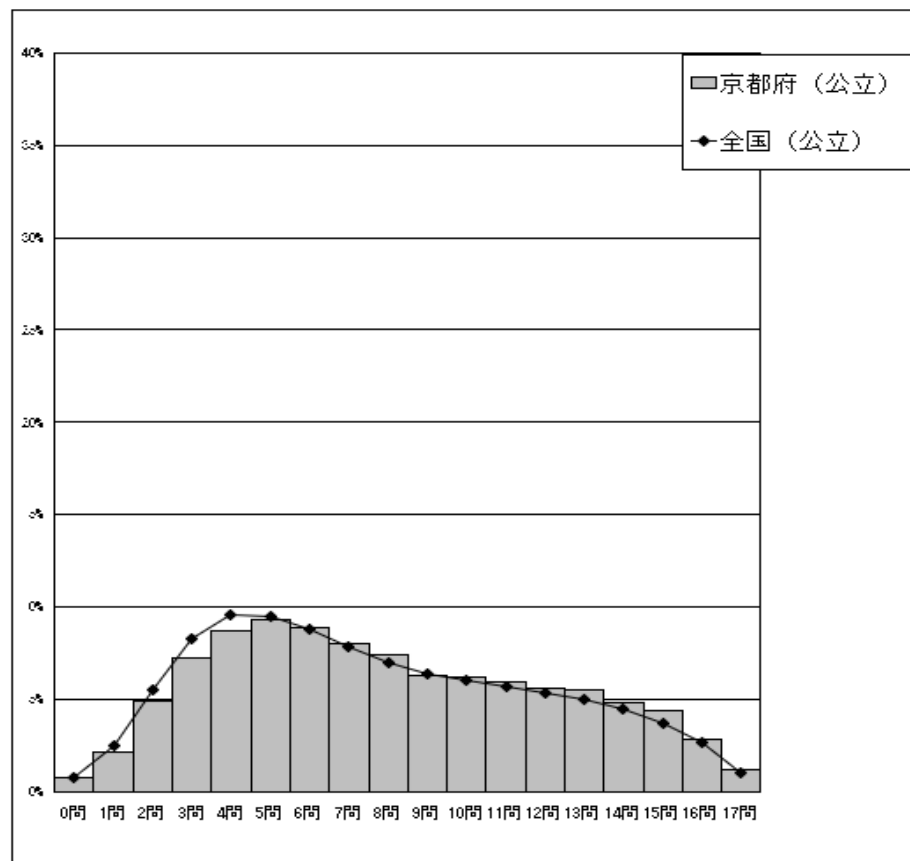
ウ 英語

注: 都道府県別の平均正答率については、整数値のみ公表することとされている。

・以下の集計値/グラフは、4月18日に実施した調査の結果を、生徒を対象として集計した値である。

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
京都府(公立)	17,088	8.1 / 17	47	8.0	4.2
全国(公立)	899,528	7.7 / 17	45.6	7.0	4.2

正答数分布グラフ(横軸: 正答数 縦軸: 割合)

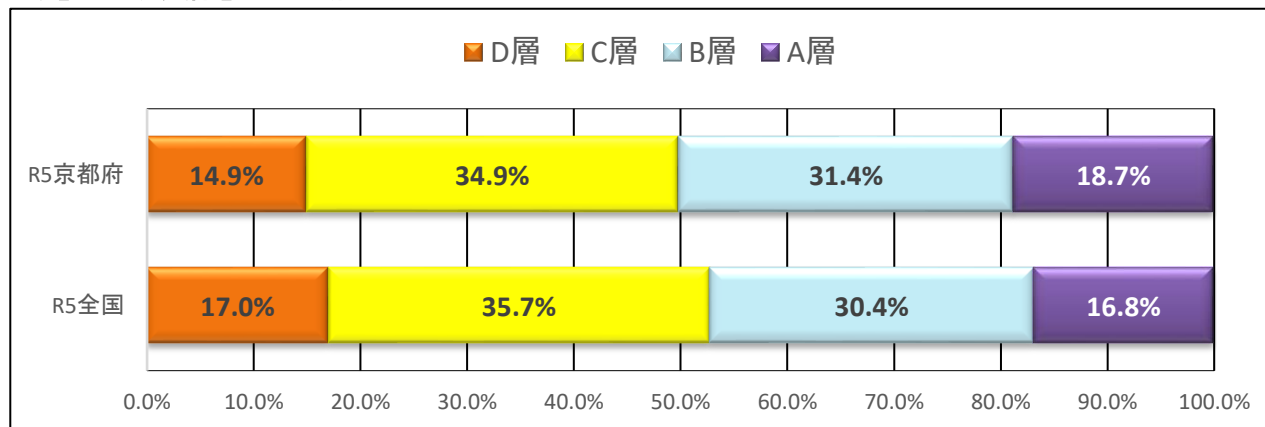


正答数	生徒数			割合(%)	
	京都府(公立)	京都府(私立)	全国(公立)	京都府(公立)	全国(公立)
17問	207			1.2	1.0
16問	487			2.8	2.6
15問	754			4.4	3.7
14問	814			4.8	4.5
13問	935			5.5	5.0
12問	961			5.6	5.3
11問	1,014			5.9	5.7
10問	1,061			6.2	6.0
9問	1,082			6.3	6.4
8問	1,263			7.4	7.0
7問	1,366			8.0	7.8
6問	1,521			8.9	8.8
5問	1,595			9.3	9.5
4問	1,486			8.7	9.6
3問	1,229			7.2	8.3
2問	843			4.9	5.5
1問	353			2.1	2.5
0問	117			0.7	0.7

※今回の調査での四分位以下の通りでした。

	京都府(公立)	全国(公立)
△ 第3四分位	11.0問	11.0問
◇ 第2四分位	8.0問	7.0問
▽ 第1四分位	5.0問	4.0問

◇【中学校英語】A～D層の分布状況



○上の正答数分布状況グラフは、生徒をその正答数によりA層からD層までの4群に分け、それぞれの人数の比率を示したものです。

○各教科・各年度の平均正答数以上の生徒をA層(上位)、B層(中上位)、平均正答数未満の生徒をC層(中下位)、D層(下位)にそれぞれ2分割して表示しています。

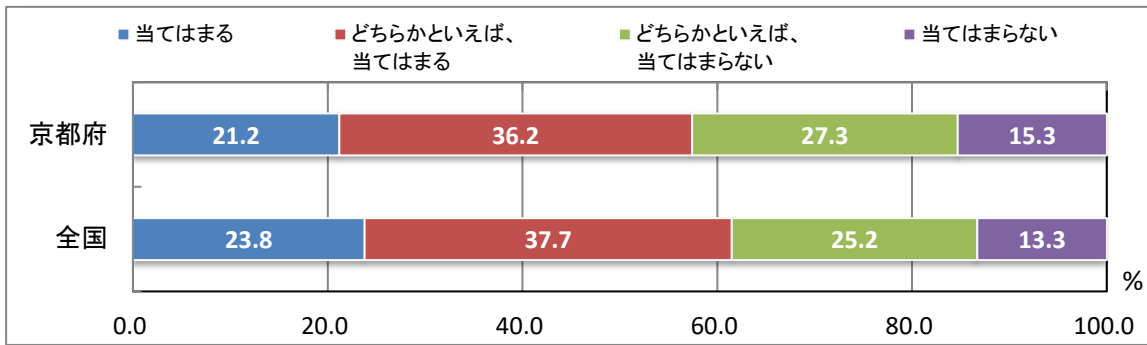
○今年度の中学校英語の出題数は17問あり、全国の平均正答数が7.7問です。したがって、0～3問がD層、4～7問がC層、8～12問がB層、13～17問がA層となります。

Ⅲ 質問紙調査結果の概要

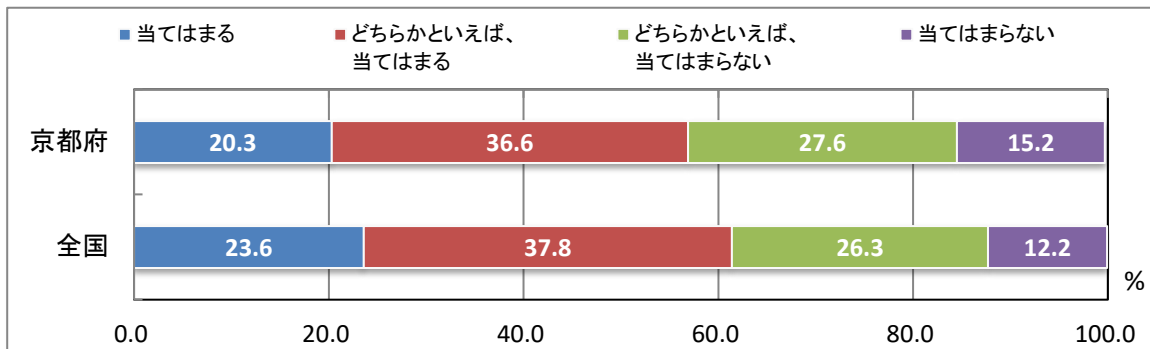
＜児童生徒に対する調査＞

Q 国語の勉強は好きですか

小学校

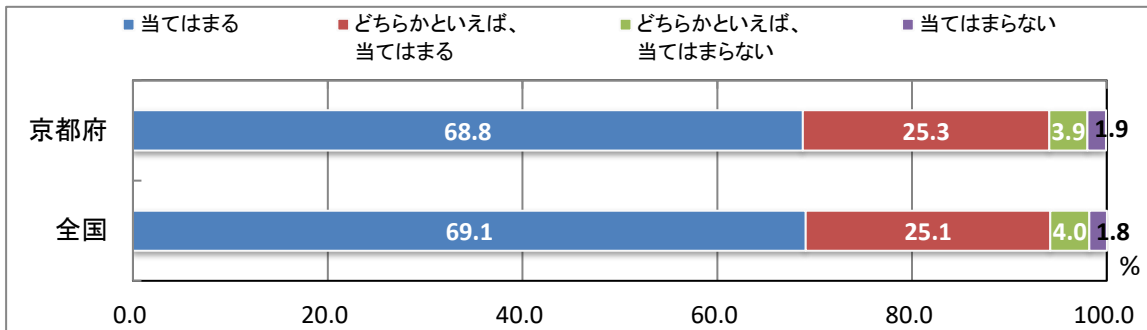


中学校

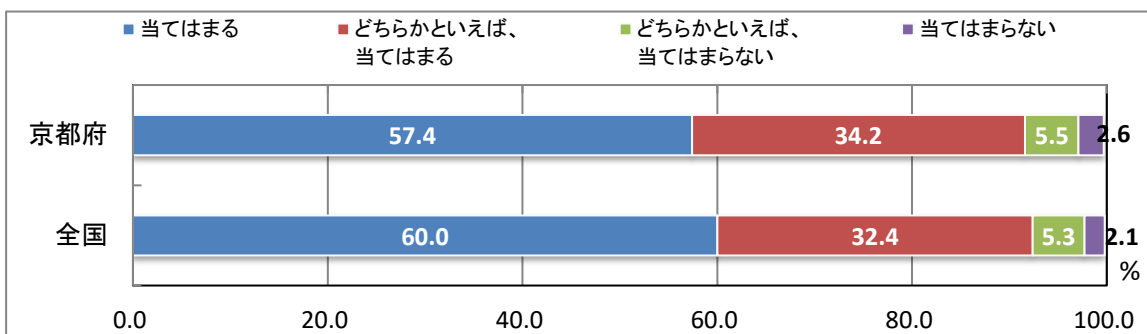


Q 国語の勉強は大切だと思いますか

小学校

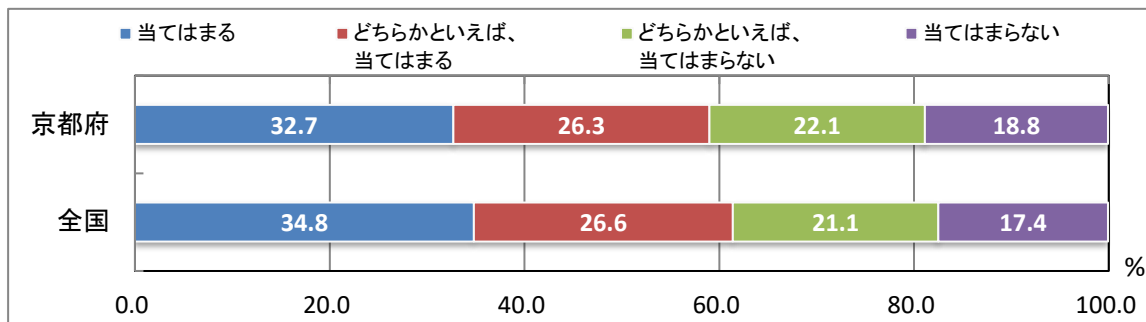


中学校

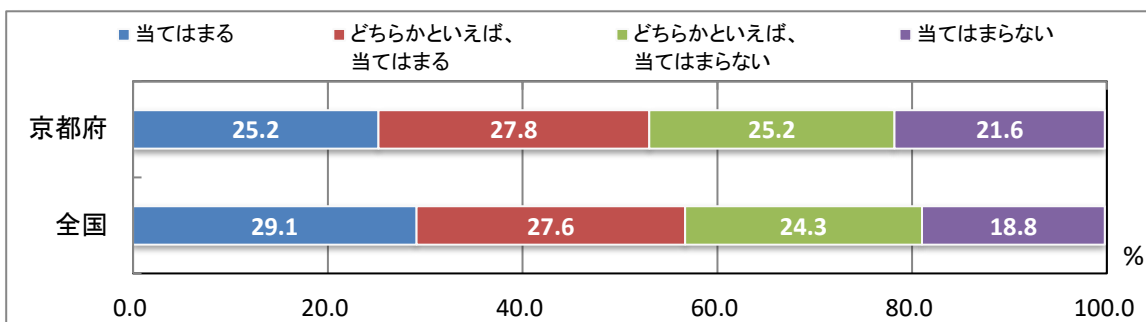


Q 算数[数学]の勉強は好きですか

小学校

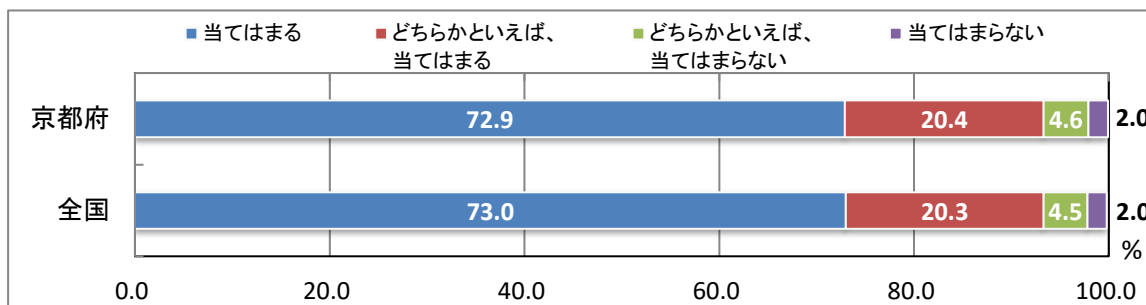


中学校

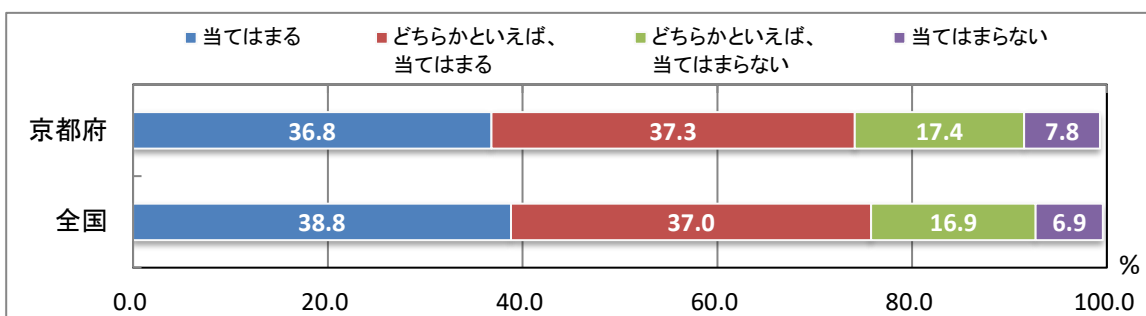


Q 算数[数学]の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

小学校

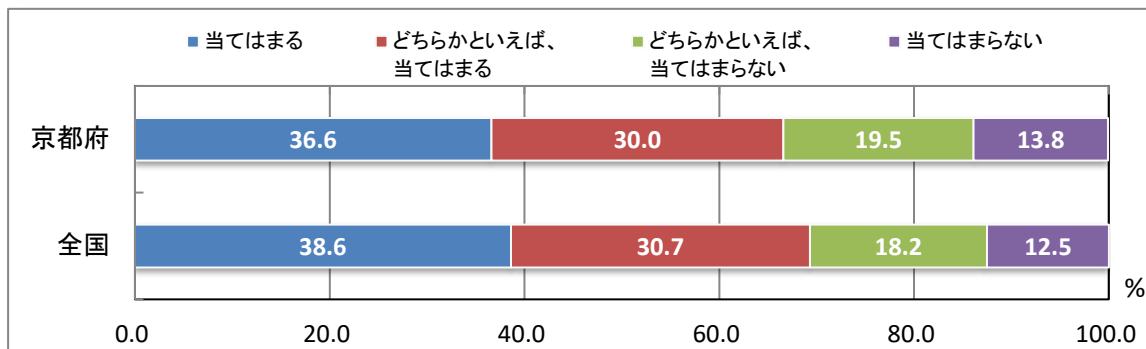


中学校

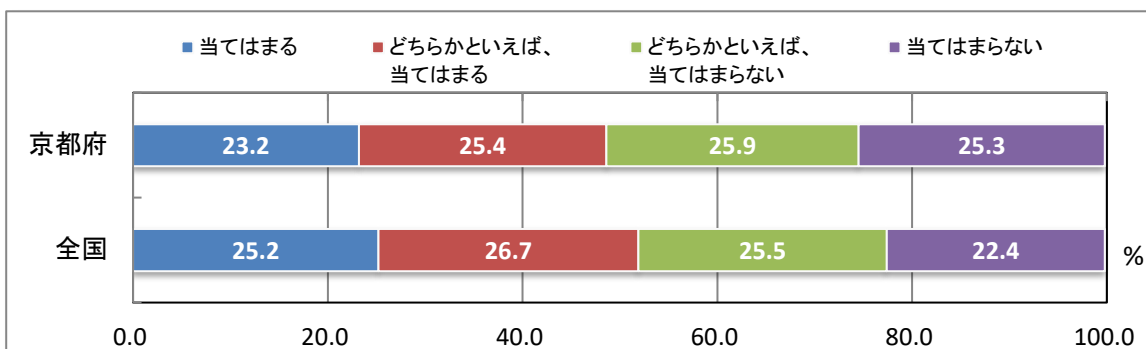


Q 英語の勉強は好きですか

小学校

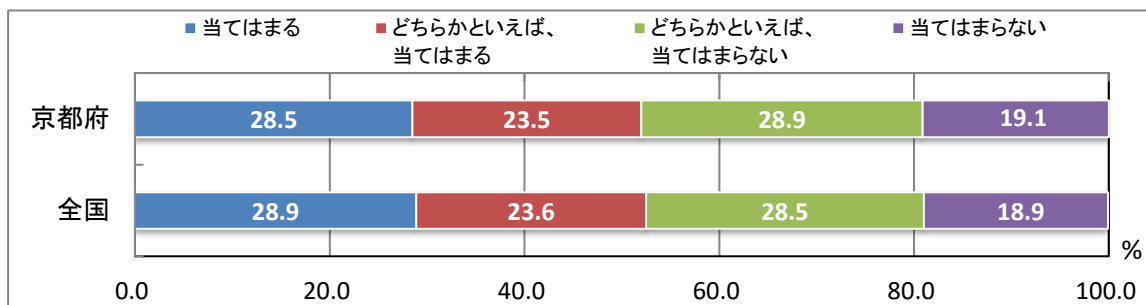


中学校

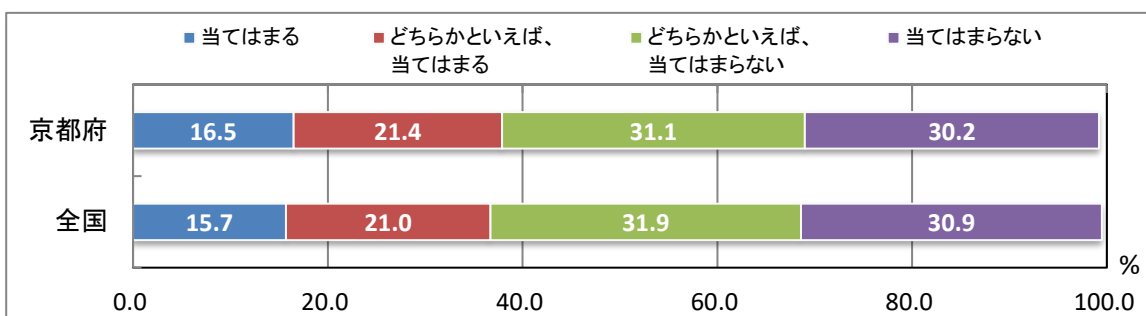


Q 将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか

小学校

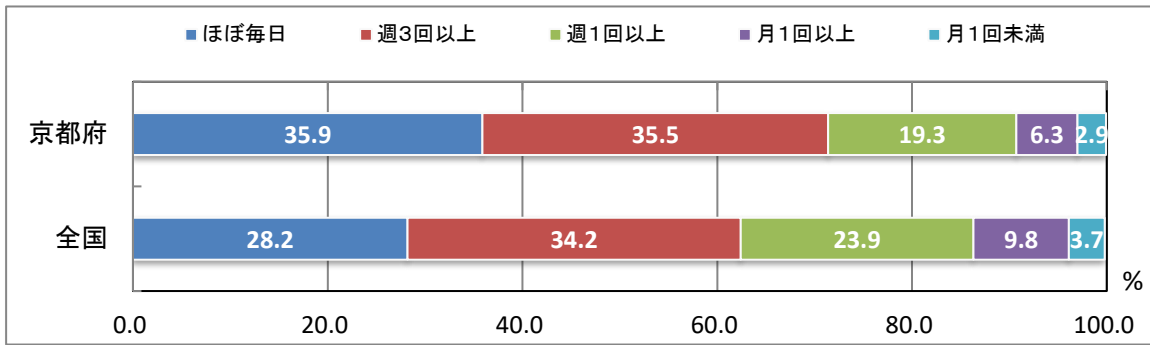


中学校

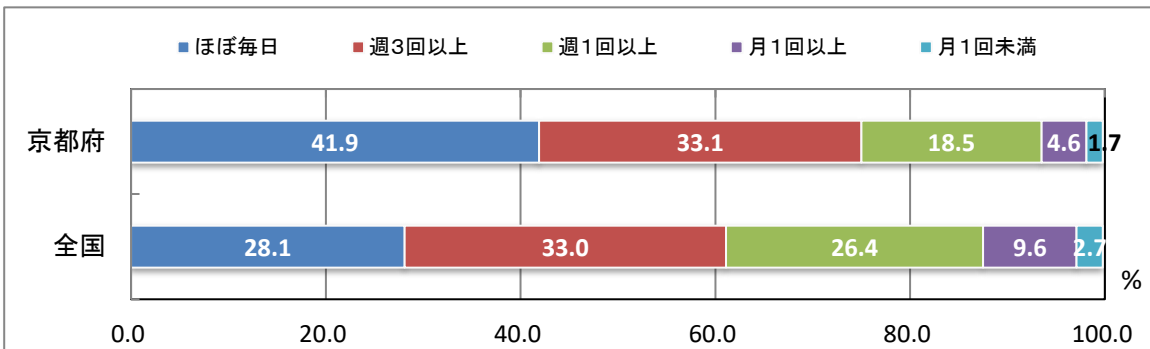


Q 5年生までに[1、2年生のときに]受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

小学校

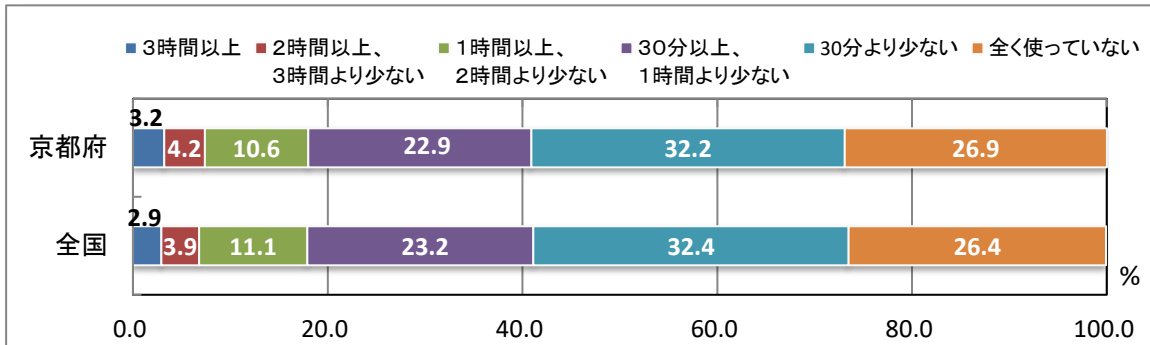


中学校

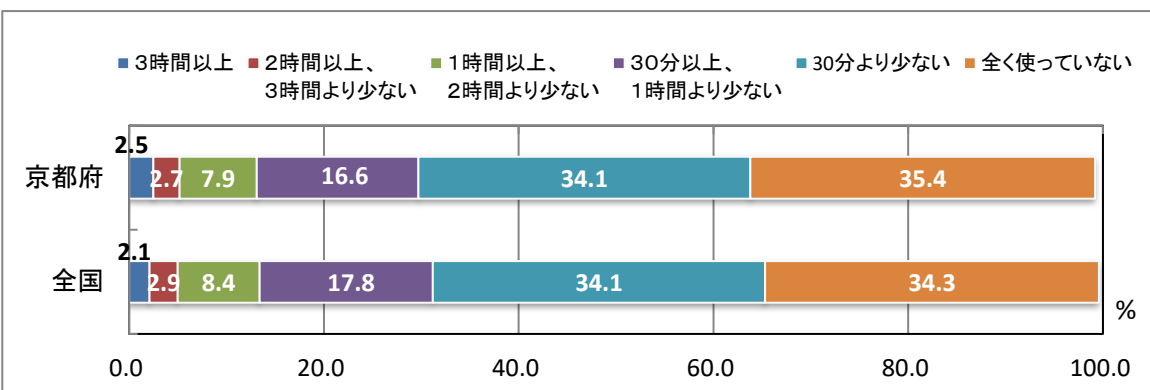


Q 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか(遊びなどの目的に使う時間は除く)

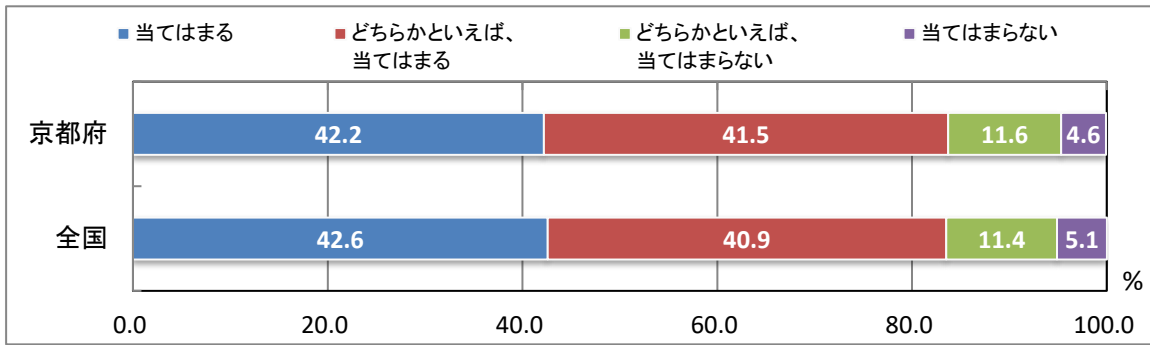
小学校



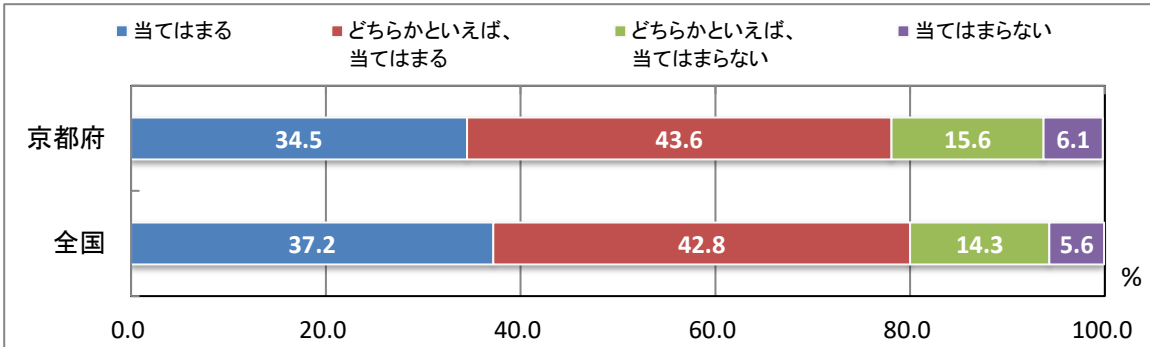
中学校



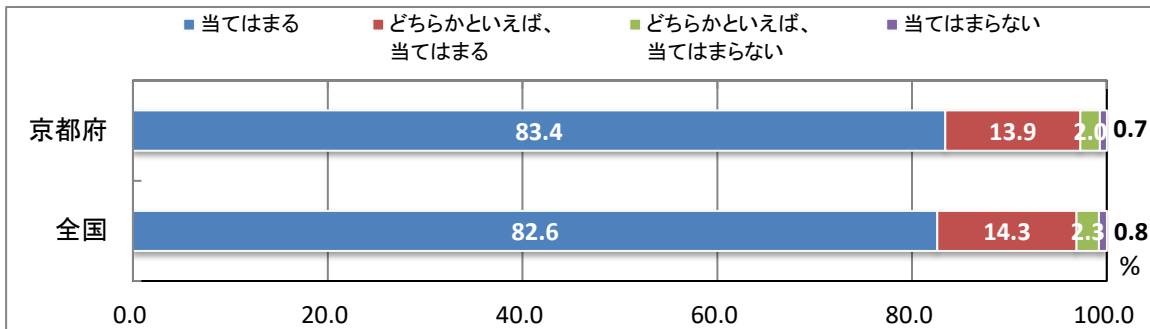
Q 自分には、よいところがあると思いますか
小学校



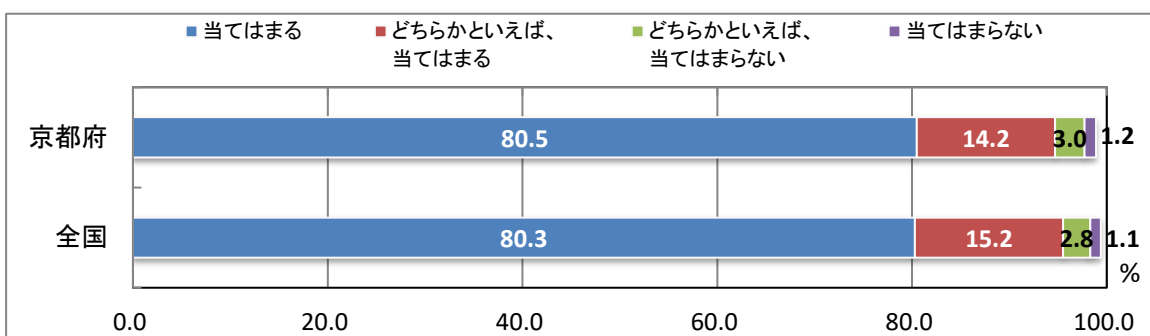
中学校



Q いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか
小学校



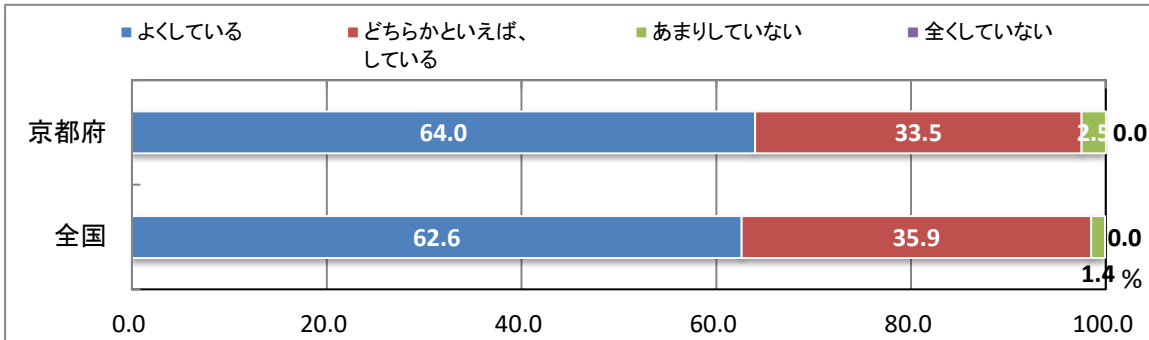
中学校



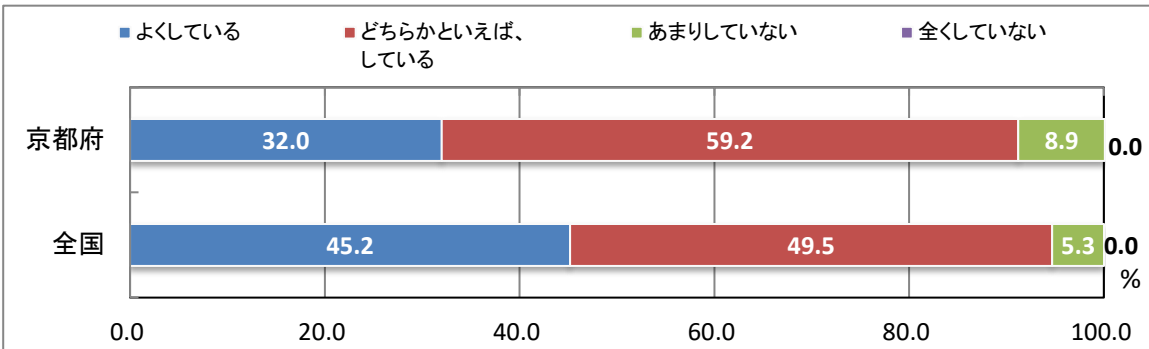
<学校に対する調査>

Q 授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

小学校

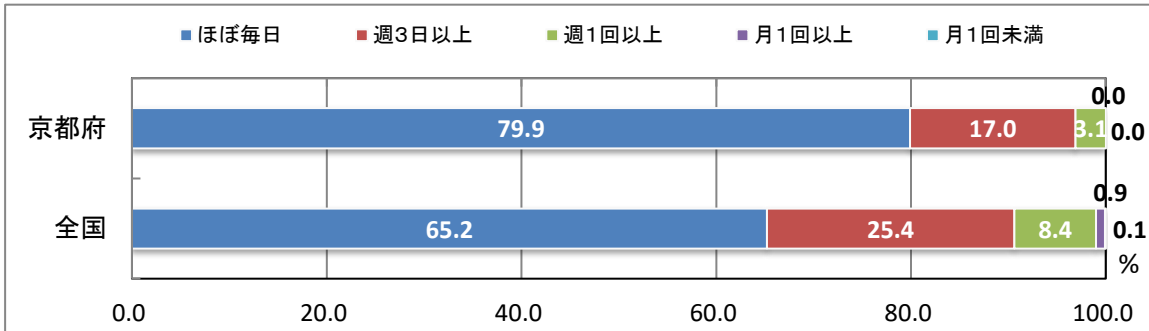


中学校

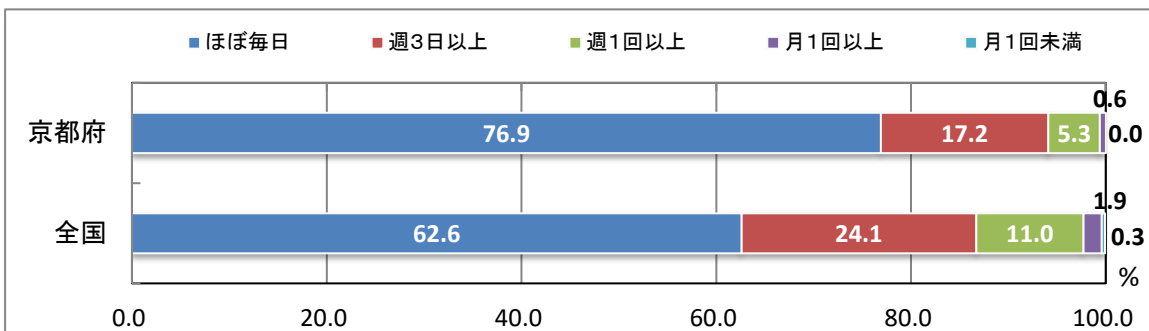


Q 調査対象学年の児童[生徒]に対して、前年度までに、児童(生徒)一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

小学校

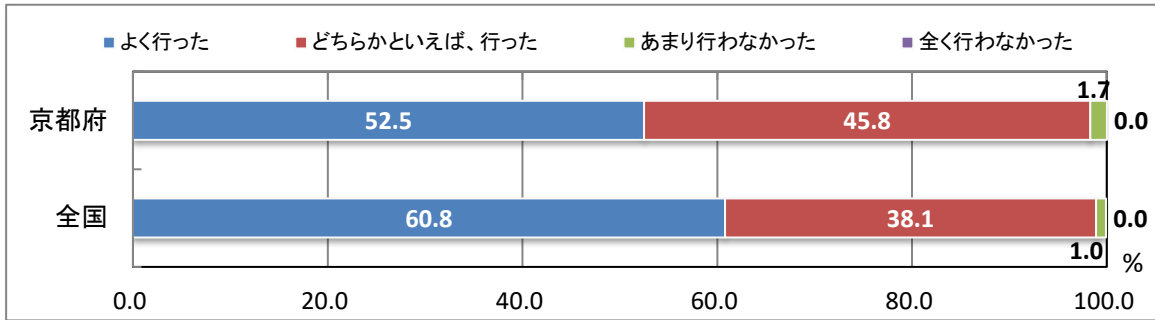


中学校

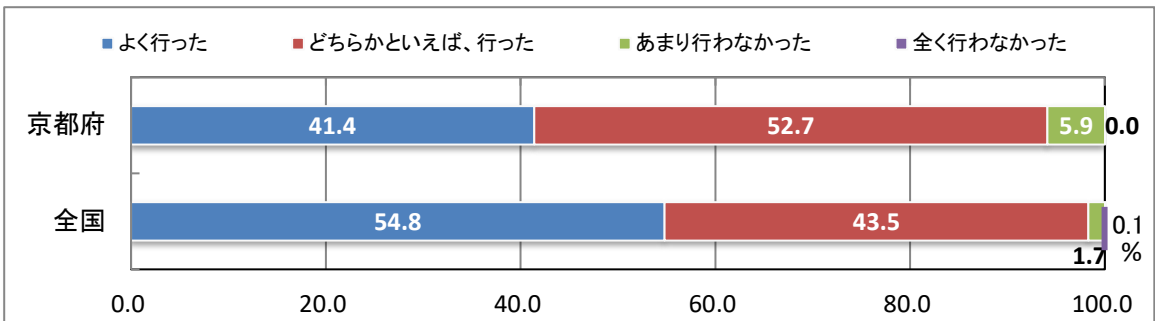


Q 学校生活の中で、児童[生徒]一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行いましたか

小学校

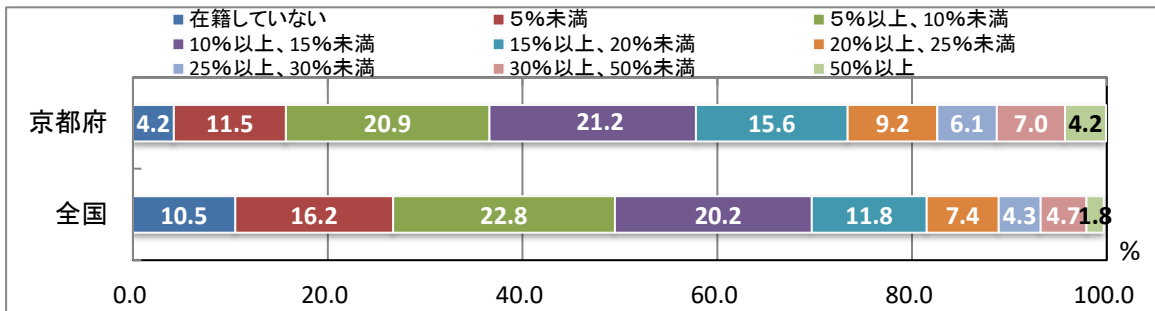


中学校

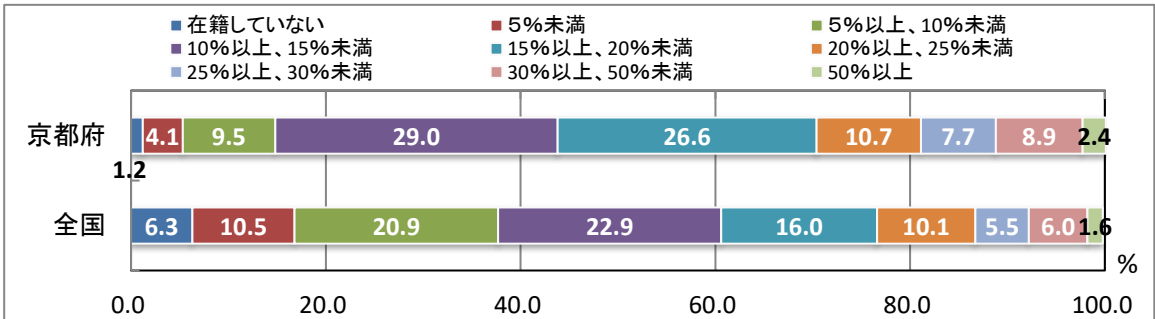


Q (調査対象学年の児童生徒について)就学援助を受けている児童生徒の割合は、どれくらいですか

小学校



中学校



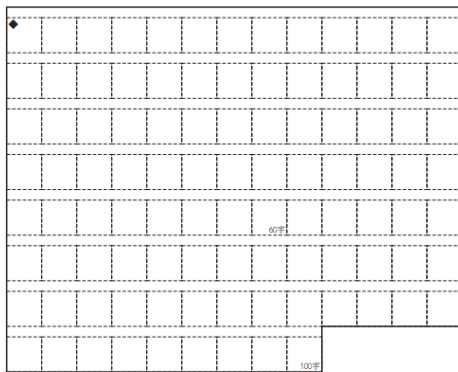
IV 京都市を除く教科の調査結果の概要

1 教科の概要（京都市を除いている。）

- 全国と比較して、D層（下位）の割合は少ない傾向にあるが、算数・数学、英語においてはA層の割合も少ない。
- 領域や観点によって、全国平均を下回っているものもあるが、全国の傾向と大きな違いはない。

(1) 小学校国語

- ・他の領域に比べ、書くことの領域に課題が見られる。図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかをみること（府正答率26.4%、無答率5.5%）に課題がある。
- ⇒考えの形成を基に記述する資質・能力に関して系統的に指導することが重要。目的や意図に応じて書き分けたり、図表やグラフなどを用いて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したりすることが重要。



※上の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。
 ※◆の印から書きましょう。どちらうで行を変えないで、続けて書きましょう。

（条件）
 ○学校の米作りの問題点については、「川村さんの文章」のグラフ（農家の田んぼと学校の田んぼの雑草の量）と「カード④」のそれぞれから分かることを書くこと。
 ○問題点の解決方法については、「カード⑤」をもとにして書くこと。
 ○六十字以上、百字以内にとめて書くこと。

【カード①】

6月24日
 ・思ったより学校の田んぼに雑草が生えてきた。
 ・このまま雑草が増えたら米のしゅうかくにえいさようするのではないかと心配だ。

【カード②】

6月30日
 ・雑草取りをしているが、農家の田んぼには見られないほど、雑草の量が増えてきた。どれくらい増えているのか雑草の量を調べる。
 ・調査方法 週に1回、農家の田んぼと学校の田んぼの雑草を取って、量をくらべる。
 ・調査さかん 7月1日～15日

【カード③】

7月19日
 ・学校の田んぼでは、雑草の量に対して雑草取りが追いついていないと考えられる。
 ・雑草の量と米のしゅうかくの関係について農家の石山さんに話を聞きに行く。

【カード④】

7月20日
 [農家の石山さんのお話]
 ・雑草に栄養をとられると、米のしゅうかくが減る。
 ・雑草が多いと、いねが病気になることがある。
 ・農家は、さまざまな方法で雑草が生えないようにしている。

【カード⑤】

7月21日
 [学校でできる解決方法]
 ・雑草取りの回数を増やす。
 ・雑草取りの人数を増やす。

【川村さんの考え】
 雑草が増える問題が起きたけれど解決してよかったな。米作りのときに記録していたカードの中から選んだカードをもとに、米作りに興味のある人に向けて、問題点とその解決方法を書こう。



1
 川村さんは、学校の田んぼで取り組んだ米作りについて文章を書こうとしていました。次は、「川村さんの考え」と川村さんが選んだ「カード①」から「カード⑤」です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

条件の一つ目の二つの要素を満たしていない誤答が57.4%

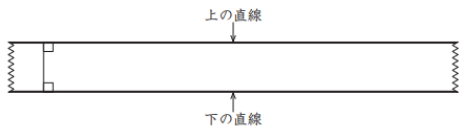
(2) 小学校算数

- ・他の領域に比べ、図形領域に課題が見られる。特に、高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること（府正答率19.5%）に課題がある。

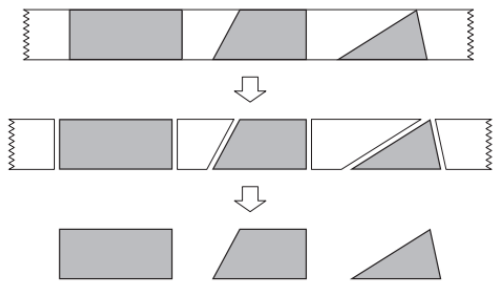
⇒三角形の面積をただ公式に当てはめて求めるだけではなく、日常の場面に対応させたり、言語を用いて互いに説明し合ったりする指導することが重要。

2

えいたさんたちは、テープを持っています。テープの上の直線と下の直線は平行で、テープのはばはどこも等しくなっています。

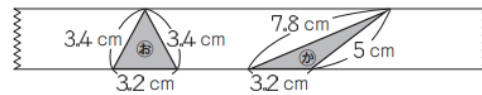


えいたさんたちは、下のようにテープを直線で切って、いろいろな図形をつくりました。



切り方によって、いろいろな図形ができますね。

(4) えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような㊸と㊹の2つの三角形をつくりました。



上の㊸と㊹の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 ㊸の面積のほうが大きい。
- 2 ㊹の面積のほうが大きい。
- 3 ㊸と㊹の面積は等しい。
- 4 ㊸と㊹の面積は、このままでは比べることができない。

具体的な高さを示さずに記述したり、高さについて捉えられていなかったりした誤答が23.1%

(3) 中学校国語

- ・書くことの領域に課題が見られる。レポートの下書きの一部について、文の一部を直す意図として適切なものを捉えること（府正答率54.6%）に課題がある。
- ⇒書くことの学習では、相手意識と目的意識を踏まえて書くことが重要。推敲の場面では、その目的と相手に合った書き表し方ができているかという意識で取り組むよう指導することが重要。

- 4 「判じ絵」を調べることにした理由を明確にしようとした。
- 3 「判じ絵」に興味をもったきっかけを明確にしようとした。
- 2 「判じ絵」が現代に伝わった理由を明確にしようとした。
- 1 「判じ絵」を知ったきっかけを明確にしようとした。

一 山田さんは、「1. はじめに」の~~~~線部「もち」を「もったため」に直すことにしました。その意図として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

はん
「判じ絵」について

山田 光一

1. はじめに
学校図書館の本で、「判じ絵」というものがあることを知った。「判じ絵」には具体的にどのようなものがあるのか、また、「判じ絵」がいつ生まれ、どのように現代に伝わったのかに興味をもち、詳しく調べることにした。

2. 調査方法
学校図書館、地域の図書館、インターネットで情報を集めた。


3. 調査結果

■「判じ絵」とは何か
「判じ絵」とは、描かれている絵や記号などが何を意味しているかを解読して楽しむものである。

(ア) ただし、【図1】のように、描かれているもの【図1】ザルと意味しているものが異なるため、解読する際には、「判じる」こと、つまり、知っていることをもとに「おし量って考える」が必要になる。(イ) 言ってみれば、なぜなぞやクイズのようなものである。(ウ) また、「判じ絵」の起源を調べたところ、平安時代後期から行われていた「ことば遊び」だと考えられていることが分かった。(エ) そして、江戸時代に庶民の間に広まる中で様々なものが生まれ、浮世絵ともつながりの深い文化として定着していったという。

(オ) さらに明治に時代が移っても、人々の娯楽として親しまれ、現代でも雑誌の挿絵やテレビのクイズ番組などで見ることができる。

■「判じ絵」の解読の面白さ
「判じ絵」の解読の仕方について、具体的に例を挙げて説明する。



【図2】は、鈴の絵に目が描かれている。描かれているものを組み合わせて解読すると、鳥の「スズメ」という意味になる。

【図2】スズメ

【図3】

【図3】は、

3 山田さんは、国語の時間に、言葉に関して興味をもったことをレポートにまとめています。次は、山田さんが書いているレポートの「下書きの一部」です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

【下書きの一部】

「3 『判じ絵』に興味をもったきっかけを明確にしようとした。」の誤答が29.4%

(4) 中学校数学

- ・複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること（府正答率32.3%）に課題が見られる。
- ⇒四分位範囲や箱ひげ図についての学習の際には、それらが意味することについて、交流し、言語化させるなどの工夫が重要。

7 イチョウの木の大部分の葉が黄色に変わった最初の日を黄葉日^{おうようび}といいます。一花さんと啓太さんは、黄葉日が以前と比べるとだんだん遅くなってきている傾向にあることをニュースで知り、二人が住む地域も同じ傾向にあるのが気になりました。そこで、二人が住む地域の黄葉日を調べたところ、1961年から2020年までの60年分の記録がありました。

二人は、黄葉日の傾向を調べるために、各年の黄葉日を9月30日からの経過日数で表すことにしました。このとき、経過日数は10月1日が1日となり、10月31日は31日、11月1日は32日となります。そして、二人は次のような表にまとめました。

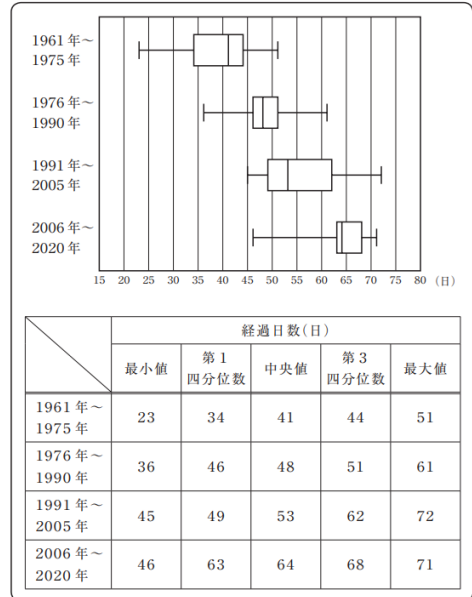
各年の黄葉日

年	黄葉日	経過日数(日)
1961	10月23日	23
1962	11月10日	41
1963	11月10日	41
1964	11月13日	44
1965	11月12日	43
⋮	⋮	⋮
2019	12月10日	71
2020	12月4日	65

二人は、上の表を見て、経過日数が年によって大きくなったり小さくなったりしていることに気づきました。そこで、60年分の経過日数を何年かごとのまとまりで分けて箱ひげ図で表し、それぞれの分布の傾向を比較することにしました。

次のページの黄葉日までの経過日数の分布は、15年ごとのまとまりとして1961年～1975年、1976年～1990年、1991年～2005年、2006年～2020年の4つに分けてまとめたものです。

黄葉日までの経過日数の分布



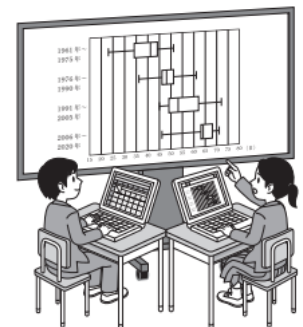
次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

- (1) 1961年～1975年の四分位範囲を求めなさい。
- (2) 二人は、前ページの箱ひげ図を見て、話し合っています。

一花さん「4つの箱ひげ図を見ると、黄葉日はだんだん遅くなってきている傾向がありそうだね。」
 啓太さん「でも、1991年～2005年と2006年～2020年の箱ひげ図は、右端と左端が同じくらいの位置にあるよ。遅くなっているといえるのかな。」
 一花さん「確かに箱ひげ図の右端と左端についてはそうだけど、箱に着目すれば、2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にあるといえるのではないかな。」

前ページの箱ひげ図を見ると、一花さんのように「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、1991年～2005年と2006年～2020年の2つの箱ひげ図の箱に着目して説明しなさい。

「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができる理由を説明することが求められているのに、箱ひげ図から読み取れることのみ記述している誤答が15.2%であり、無回答が18.4%



(5) 中学校英語

- ・書くことの領域に課題が見られる。与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させること（府正答率23.2%）に課題がある。

⇒目的・場面・状況を踏まえた言語活動を位置付け、授業を展開することが重要。

9

- (1) 次の①、②について、例を参考にしながら、必要があれば（ ）内の語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、それぞれ会話が成り立つように英文を完成させなさい。

(例) <友達同士の会話>

A : I called you at eight last night.

B : Oh, sorry. I (do) my homework then.

〔答え〕 was doing

① <先生と生徒の会話>

A : Do you have any plans for summer vacation?

B : Yes. I (visit) my uncle in London.
I can't wait!

A : Wow, that's nice!

② <友達同士の会話>

A : Oh, you have a new watch!

B : Yes, I got it yesterday.

A : (buy) the watch?

B : At a department store near the station.

疑問詞 where を用いているが、一般動詞の2人称単数過去形以外の疑問文を書いている誤答が28.9%

V 令和5年度全国学力・学習状況調査結果の教育局別概要

1 教育局別の状況

(1) 平均正答率

- 府内各地域の状況を教育局別の平均正答率で示しています。
- 各教育局別の平均正答率は、小学校、中学校ともに概ね全国平均に近い値ですが、教科毎にみると一部に課題が見られます。

小学校	国語	算数	
全国	67.2	62.5	
京都府	70	65	京都市含む
乙訓局	72	67	
山城局	68	63	
南丹局	68	62	
中丹局	69	64	
丹後局	66	60	

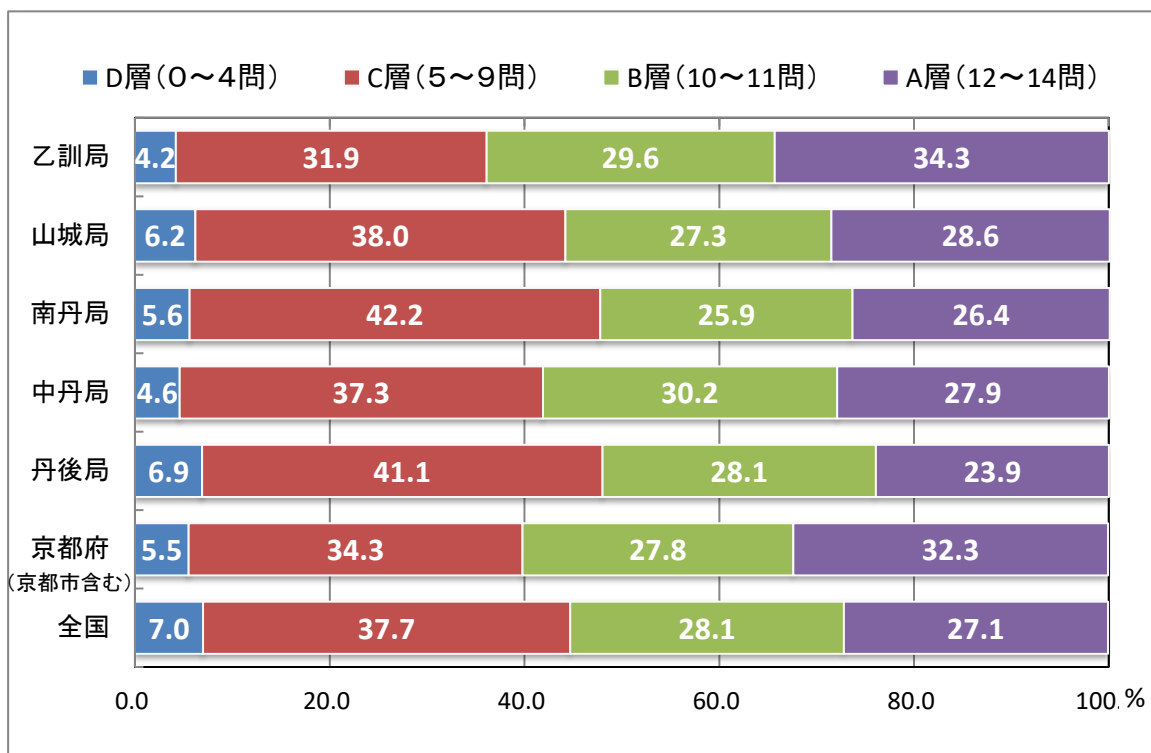
中学校	国語	数学	英語	
全国	69.8	51.0	45.6	
京都府	71	52	47	京都市含む
乙訓局	73	56	53	
山城局	69	50	44	
南丹局	70	50	39	
中丹局	69	48	40	
丹後局	68	46	43	

(2) 児童生徒の学力状況（正答数分布状況より）

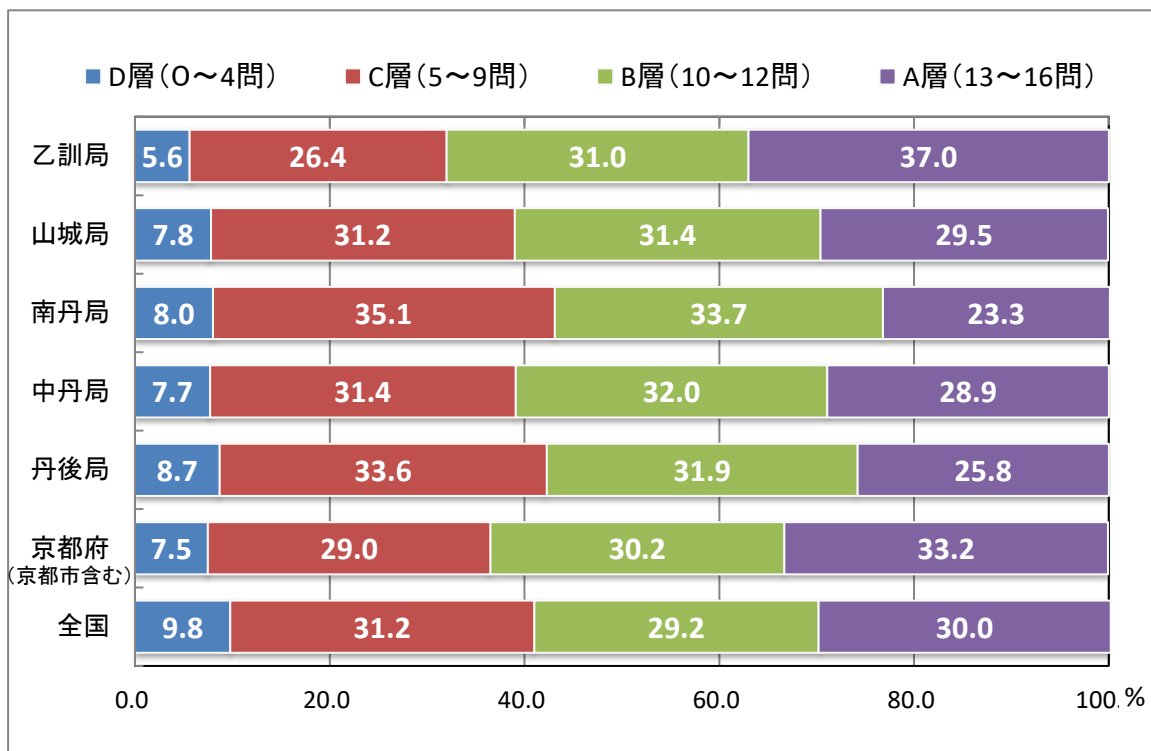
- 次の正答数分布状況グラフは、児童生徒をその正答数によりA層からD層までの4群に分け、それぞれの人数の比率を示したものです。
- 各教科・各年度の平均正答数以上の児童生徒をA層（上位）、B層（下位）、平均正答数未満の児童生徒をC層（上位）、D層（下位）にそれぞれ二分割して分析します。
 例えば小学校国語の出題数は14問あり、全国の平均正答数が9.4問です。したがって、0～4問がD層、5～9問がC層、10～11問がB層、12～14問がA層となります。

◆小学校第6学年正答数分布状況

ア 国語

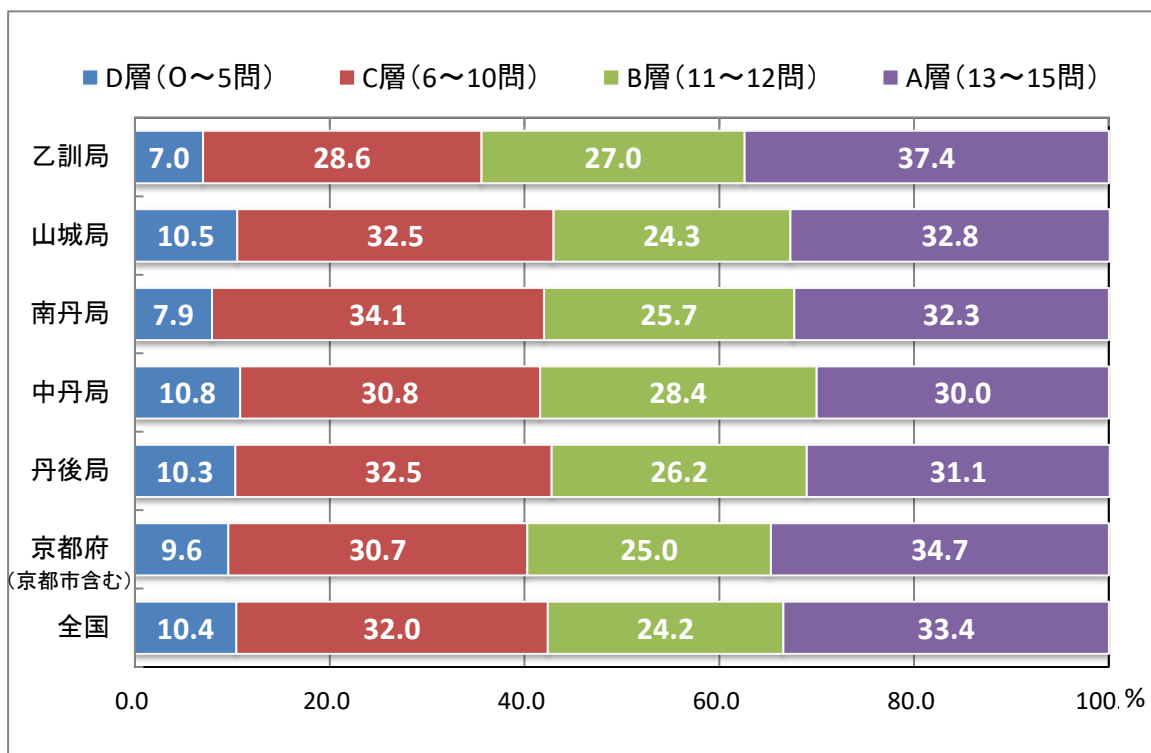


イ 算数

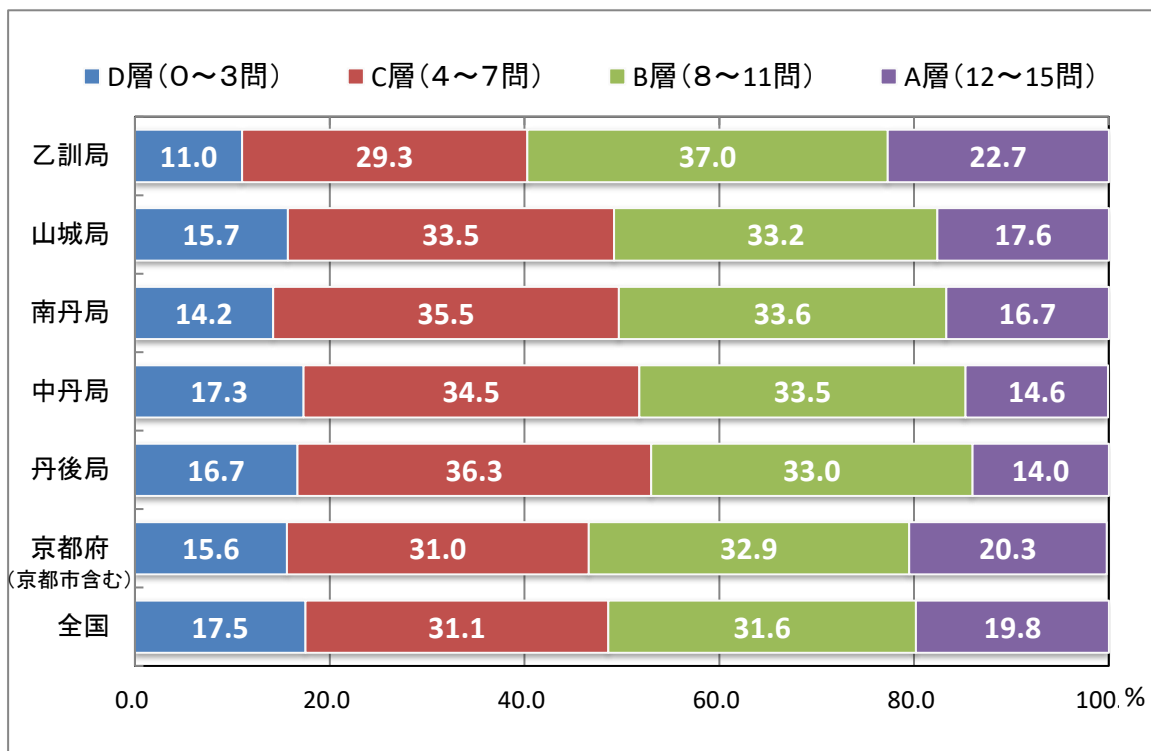


◆中学校第3学年正答数分布状況

ア 国語



イ 数学



ウ 英語

